



Round Table Discussion

杉原健一

司会

Kenichi SUGIHARA

東京医科歯科大学特任教授／
光仁会第一病院院長

金光幸秀

Yukihide KANEMITSU

国立がん研究センター中央病院
大腸外科科長

固武健二郎

Kenjiro KOTAKE

栃木県立がんセンター研究所長

橋口陽二郎

Yojiro HASHIGUCHI

帝京大学医学部
下部消化管外科教授

側方郭清は直腸癌の標準治療として適切か

日本において進行下部直腸癌に対する直腸間膜切除＋側方リンパ節郭清は、後向き観察研究のデータをもとに標準治療とされているが、有効性を裏付ける厳密な臨床試験はなされていない。最近では日本でも、欧米での標準治療である術前放射線療法／化学放射線療法を導入している施設が増えつつあり、臨床現場では治療方針が多岐にわたっている。本座談会では、杉原健一先生の司会のもとに、まず側方郭清と術前放射線療法の歴史的背景、有効性と合併症、現況を踏まえながら、臨床試験JCOG0212の最終解析結果が側方郭清の意義や位置付けに与える影響を予想していただいた。さらに遠隔転移も視野に入れた術前補助療法の開発、最新画像診断によるリンパ節術前検査の臨床試験を紹介し、大腸癌治療の近未来像を語っていただいた。

側方リンパ節郭清：リンパ流の系統的研究から臨床実践へ

杉原 『大腸癌治療ガイドライン 医師用2014年版』の改定時に、“直腸癌に対する側方郭清の有効性は臨床試験で確立していない。再検討すべきではないか？”——という意見があり、次回の改定作業で検討することになりました

た。本座談会では、この意見も踏まえ、診断学・治療学が進歩した現在における側方郭清の意義について多様な側面から討論していただきたいと思います。最初に、金光先生から側方郭清の歴史や範囲、機能障害などについて概説をお願いします。

金光 側方郭清は直腸リンパ流の系統的研究をもとに開発された手術手技で、直腸リンパ流に上方向と横方向の2